

学校規模適正化・適正配置に関する地域説明会(会議録)

1 日 時 令和7年8月23日(土)、14:00~15:35

2 開催場所 イオンタウン釜石 2階 イオンタウンホール

3 参加者 26名

4 事務局

【教育委員会事務局】

高橋勝教育長、川崎浩二教育部長、笹村聡一総務課長

佐々木薫学校規模適正化推進室課長、岩淵勝也学校教育課長

鈴木隆光学校教育課主幹、川崎克総務課長補佐

谷藤太郎学校規模適正化推進室長補佐

【市長部局】

佐々木豊市民生活部長、鈴木伸二保健福祉部長、畠山大産業振興部次長

佐野正治財政課長、土橋照好防災危機管理課長、佐々木秀裕建設課長補佐

5 経過

(1)開会

(2)教育長あいさつ

(3)職員紹介

(4)説明

(教育委員会事務局より説明)

(5)意見交換(質疑応答)

【参加者】

出生数が2000年で377人です。2020年度のデータでは135人ということで100人以上減っているわけです。その中で学校が今まで成り立ってきたことがすごく不思議だと思っています。やはり適正な規模でなければ教育が成り立たないと考えていますので、統廃合は、しっかりやっていただければありがたいと考えています。

あと、釜石市は廃校になった跡地の利用が全くないです。特に西中学校は何もないです。橋野小中学校も何もないです。だから、小さい土地しかない釜石市において、大事な面積

を有する土地が出現したという新しい発想を持って、そこに何を持ってきたいのか。企業さんがいらっしゃるという事になれば、働く人や人口が増えて、子どもの数も増えていく要因になるのではないかなと思っています。

【教育委員会事務局】

去年1年間の出生数が109人となっております。もう100人を切るのではないかという中で、ご提案の通り、子どもたちの学びの場を何とか維持していきたいと考えています。

跡地利用につきましても、例えば、今計画にあります栗林小学校や白山小学校は、防災の部分でいうと拠点避難所や緊急避難場所となっています。あとは、栗林小は体育館も地域のスポ少の利用や、夏場ですとナイター設備があるということで屋外活動で利用されており、そういった部分で、地域で施設をどのように活かしていくか、あとは、釜石市内の公共施設の在り方を含めて市内全体で適正な在り方を考えていきたいと思えます。

【参加者】

釜石小学校と双葉小学校が統合して、校舎についてはまだ検討中ということでした。ことばの教室は釜石の歴史が深く、開設から58年を迎えるということで、長い間、ことばの教室の象徴ということで、釜石市が一番盛んにやっているなという印象があります。

現在、釜石小学校の施設がすごく整っています。幼児教室から通われている幼児の方たちが伸び伸びと教室に通えるように、プレイルームや防音施設があり、前年度にはエアコンを設置していただいています。釜石小学校をそのまま残していただいて、ことばの教室の存続をお願いしたいと思えます。

もう1点、鵜住居小学校と栗林小学校の統合は早い段階からやり、その後に小中一貫校になる予定になっています。鵜住居小学校と栗林小学校は釜石東中学校と同じ校舎に通うのですが、小中一貫校になる年度がなぜ違うのか。もし栗林小と鵜住居小が統合して、そのまま東中学校に通うのであれば、小中一貫校をもっと早くしてもいいのではないかなと思えます。

【高橋教育長】

釜石小学校のことばの教室は、施設が非常に素晴らしいことは認識しております。また、ことばの教室の親の会さんからも、統合にあたっては、ことばの教室に対する申し入れを承っておりますので、ことばの教室をどうするかについては十分考えております。統合になって、例えば、双葉小学校の教室を使うとしても、幼児ことばの教室は今の釜石小学校の施設を使うという考え方も出てくるのではないかなと思えます。そして、小学校のことばの教室は、どちらかというと巡回指導が中心になっているので、別の学校に移しても巡回指導で実施できるのではないかなという考え方もあります。そういったことも含めて、今後検討していきたいと考えております。

それから、小中一貫教育については、栗林小学校を鶴住居小学校にまずは統合するというので、おそらくお互いの小学校で、交流や受入れなどで、令和8年度までは時間が取られてしまうのではないかと、小中一貫教育の準備も両方やるのは、学校にとっても負担ではないかというところが1つです。

それから、他の地域の小中一貫教育の取組で、やはり準備に3年間かかったということも聞いてますし、計画策定委員会のアドバイザーも、小中一貫教育をすぐということではなくて、準備をきちんとしないと、ただ小中一貫をやるといっても、なかなか効果が出ない部分があるということでしたので、まずは準備をしっかりやってから取り組むことで、より良い小中一貫教育をしていきたいというところですよ。

例えば、教育課程について、小中でどんな教育をするか、そういうところでも結構時間がかかったり、小中合同の行事はどうやっていったらいいのか等、いろんな準備があります。PTAについても一緒にやる形になりますので、PTAの在り方とか、また学校運営協議会、コミュニティスクールでも一緒にやる形になると思うので、いろんな準備に時間がかかるので、まずは3年間の準備期間で、しっかりやっというところでの想定です。ただ、準備が早くきちんとできて、前倒しで導入しても大丈夫だということであれば、例えば、12年度からではなくても11年度からでもできるということであれば、その辺は協議をしてということになるかと思えます。ただ、その間何もやらないということではなく、小中連携を今もやっていますので、小中連携でできるところはやりながら、小中一貫教育に向けて準備をしていきたいと考えているところですよ。

【参加者】

学校規模適正化検討委員会は統合を前提にした話ではない、という形で始まったと記憶しています。その前提で、いろいろな活発な意見が出た中で、最終的には統合を良い形で持っていくかしかかないのかなと思いつつながら、いろんな人の意見を聞いていたのですけれども、当時から大事にしてほしいと考えていたのが、逆に言うと釜石市としての独自性のある教育を打ち出すチャンスなのではないかと、こういう時だからこそ、釜石の独自の教育を打ち出すことで、もしかしたら若干ですけど人口の増加に繋がるかもしれないということ。そういう話でいうと、学校規模適正化だけではなくて、行政全体の話なのではないかという思いもある。今ここに至る過程において、私が話したことを前提とした時に、教育委員会や教育関係者の中だけではなくて、行政全体の中の話として、議論が行われたのが1つ気になるところですよ。

正直申し上げまして、計画は割と無難な着地だなという印象を受けました。他の自治体でも同じような話になるのではないかと。釜石市独自の部分をどういう思いを持って込められたのかお聞きしたいと思います。

【教育委員会事務局】

統合ありきではないという部分でしたが、教育委員会では、様々な教育関係者の皆さんからご意見をいただいて、児童生徒数の推移を見て、あとは、5つの中学校区に1つは小学校を残すという方針で、それをやるためにはやはり小規模校にならざるを得ない。栗林小学校、白山小学校は統合が必要、あとは、年度が進むにしたがって、釜石小学校、双葉小学校も児童数が少なくなる中で、子どもたちの学びの場をどうやったら維持していけるかという考えで進めてきました。

統合後の児童生徒数の推移の表、令和10年度の栗林小学校を見ていただきたいのですが、1年生の見込みの児童数はゼロ、2年生は1人で、複式学級であったとしても、1、2年生でやれば1人で、例えば、鶴住居小学校と交流授業で体育、音楽、英語などの交流授業をやりました、だけど栗林小学校に戻ると1人ぼっち、というのはさすがに難しいのだろうなと考えました。同じようなことが白山小学校でもあって、それを回避するためには、統合ありきではないとはいえ、やはり統合でもって、全教科、それから始まりの会から終わりの会まで孤独な子どもを生み出さない、友達がいる中で、学校の学びの場を活かしていきたいということを考えておりました。それは教育委員会だけではなくて、市長部局の総合計画の中でも教育の充実という部分で、考え方をすり合わせながら、この計画策定に取り組んできたということがあります。

釜石市独自の計画という部分については、児童生徒数、あとは釜石市内の人口規模が縮小する中で、どうやったら教育の場を維持していけるかという計画になります。

それとは別に、釜石市内の子どもたちをどういった児童生徒に育てていくかということで、釜石市では「強く生き抜く力」を子どもたちに身に付けせることを進めております。この考え方には、まずは、子どもたちに自分を好きになってもらう、自分を大事にしてもらうという考え方が根本にあります。目の前のお友達にも大事にしている自分がある、大好きな自分がある、それがあって初めて、他者への思いやりが芽生えます。これは、「強く生き抜く力」を、釜石市の場合は東日本大震災も経験して、防災教育を中心とした取組として活動してきました。その先にあるのが、やはり道徳心や社会性、いじめのない自分、いじめのないお友達との関係、そういったものを育てて活かしていけるような、ここの部分は釜石独自の取組だと考えています。

【高橋教育長】

今回の学校規模の適正化は、小学校は複式を解消することが大きなところになっています。その上で、小学校は今の中学校区内に1つは当面は残していきたいということは、小学校のほうが地域との結びつきもあるということで、釜石市は地域と結びつきながら、子どもたちを育成してきたというところがあり、そういう面では、先ほど、無難な計画になってしまったというお話がありましたが、一方では地域とのつながりを大事にしていきたいという思いがあったということ、それが1つ釜石らしさにつながるのではないかと考えています。

中学校は、規模があることで教科の充実などが図られるということで、学校をまとめるこ

とで教育環境を整備することが大事なのではないかということ。もう1つは、これまで釜石ではやってこなかった小中一貫教育に取り組むことが、1つの特色になっているのではないかと考えています。

あとは、市長部局との連携が今まで十分にできなかった部分があるのかもしれないので、適正化にあたって、どのような意見があるのかということも、実際にお聞きしていただいて、例えば学校がなくなった後の跡地をどういうふうを活用していったらいいのかなど、様々なところに市全体として取り組んでいきたいということで、今回の地域説明会でも必ず関係する部署の代表の方に出ていただいて、皆さんのご意見やご質問を十分聞いていただいております。

【参加者】

具体的に、これはすべて対等合併なんですか。小学校でいうと、大体対等合併なんだろうと予想できるのですが、中学校の場合は、先に唐丹中、そのあと3年後に他の学校が統合となると、例えば唐丹中の場合、どのような対応になるのか。学校名や校章、校歌、その辺は今のところどのような考えでいるのか、お聞きしたいです。

【教育委員会事務局】

唐丹中学校を先に釜石中学校に統合する場合は、そこは対等とは考えておりません。釜石中学校に唐丹中学校が入るというイメージを持っています。そのあと、甲子中学校、大平中学校、統合後の釜石中学校と一緒にいるときは、対等と思っております。その時点では、おそらく、学校名、校歌、校章、制服、いろいろなものを決めていく準備が必要になるのではないかなと認識しております。

【参加者】

小学校の統合は令和9年度で、今からやっても間に合いますか。

平成の合併のときに、私も子どもたちがやったので、1年半では結構難しいなというのは感じたので、もうちょっと余裕を持ったほうが進めやすいのかなという感じを受けていました。

【高橋教育長】

このところは、9年度からとしたのは、特に栗林小学校は、入ってくる子どもが1人とか、次の年はゼロとか、子どもたちのことを考えると、できるだけ早くやりたいという思いです。今、推進計画案を示していますが、もちろん、これからの地域や保護者の方との話し合いで、どうしても9年度は無理だとか、何か大きな課題があって、それをどうしても解決しないと統合はなかなか難しいということがあれば、例えば、1年余裕をみるとかは出てくると思っています。ただ、今のところはこれで進めたいと、まず子どもたちのことを考えて、できるだけ

早くしたいなという思いでいます。

【参加者】

経験上、統合より、閉校のほうが大変ですから。

【参加者】

6年後に小学生になる子どもがいる親の視点として意見、希望をお伝えできればと思っています。検討委員会とかを経て、市としての最良の策として今回つくられたものだと思いますので、いろんなメリットがあることだと思いますし、まだ今枠組みなので、中身次第でこれからいかようにも良くなるのかなと思って聞いてはいたのですけれども、ただ、6年後に、例えば、入学を見越している親世代としては、6年後の教育に希望を持てなければ、人生計画が変わってきますので、今から市外への転出だったり、転職だったりということを考え始めます。そうすると、人口減の加速にもつながってしまう非常に重要な事業だと思っているのですが、そういった世代に向けてこの計画がポジティブに映るように、いろんな思いが、先ほど熱いお答えを聞いてなるほどと思っていたのですけれども、そういうことが明確に分かりやすく伝わるような共有の方法をしていただきたいなど。良さが分かりやすく伝わる、人口減の為のしょうがない打開策と映らないように説明をしていただきたいなど思いました。

そういう思いで聞いていたときに、少人数よりも多人数での教育のほうがメリットがあるとおっしゃっていたのですけれども、そこが具体的にどんなことなのか分からなかったのもう少し共有していただけたら、どこかの機会で市民に共有していただけたらなど思いました。

【教育委員会事務局】

教育に関わる諸課題があると思います。不登校やいじめもそうですけれども、そういった課題に私たち教育委員会としても真摯に向き合っていきたいというのはそのとおりですし、学校の魅力化にもきちんと力を注いでいきたいと考えております。

人数が一定程度いる中での活動を考えますと、例えば、それぞれの授業の中ではグループで意見交換をしたり、様々な活動を共同で行うということもあります。そういった際に、いろいろな人数編成が考えられます。あとは、体育、競技スポーツで、ある程度人数が必要な競技もあると思いますので、そういったところにも取り組めると思います。あとは、児童会活動や生徒会活動にしても、多くの子どもたちと意見を交わす、意見をもらう、あとは、合意形成していくことが社会に出る子どもたちには必要な資質能力となりますので、一定程度の人数がおりますと、そういったところも充実が図れるということが考えられます。

【参加者】

橋野小中学校を卒業しておりますが、小中学校が一緒に良かったということしかない。P

TAは大変だったかもしれませんが、先生たちとの距離も近くて、先輩たちに憧れて、中学生は小学生の面倒をみて、すごく楽しく、深い絆が結ばれていたのではないかなと思う。もちろん、少人数で逃げ場がないというデメリットもあったのですけれども、そういった学校が釜石にはありました。そういった当事者や卒業生、その時の先生などの意見というのは、検討の中で、いくつかヒアリングされているのかなと思いました。

白山小学校の複式に関して、たくさんPTAと先生と議論して、統合の話も議論してきました。その時に出た意見で、やっぱり複式学級の良さというところ、少人数の良さというところがすごく出されましたが、先生たちの中でも、複式学級の経験のある先生と経験のない先生では全く見えている景色が違うなと思っています。複式学級の経験をした先生の話の聞くと、とても一人ひとりの子どもたちがよく見えて、メリットの面をよく言っていたななと思っています。

また、白山小学校でいうと、平田小学校は津波の浸水区域にあたりますので、そこにわざわざ通わせるのはどうなのかなというところがあって、そういった面で統合の反対意見もありました。

そういう経験を踏まえて、例えば、大平中学校に小中学校みたいな「学園」みたいな形にするとか、甲子地域も小中学校で1つの校舎、設備を共有するとか、そういった意見は出なかったのか。当事者、経験者の意見はどのくらい聞いているのか、それから、別の統合の在り方は検討いただいているのか、ご質問させてください。

【教育委員会事務局】

当事者の先生方の意見ですが、検討委員会や計画策定委員会の委員の中には、先生方、当事者となったPTAの方にも参加していただいて意見はいろいろといただいているところですよ。複式学級のある学校に出向いて、実際に授業の様子を見て、先生方からの意見も聞きました。もちろん小規模校の良さもありますし、良さのほかに、困ったところやこういうところが大変で、負担だという意見も両方もちろんあると聞いております。そういったところを踏まえた上で今回の計画案とさせていただきます。

【高橋教育長】

小規模校や複式の経験のある高校生にお願いして、当時、実際にどうだったか、小規模校や複式を経験して今どう思うかなど、アンケートをとりました。回答していただいた方は多くはなかったのですが、小規模校で仲間の関係が濃密になったという子、大人数の中でいろんなことをやったほうがよかったという子と、様々で、それぞれの子どもの捉え方なのかなと感じています。

それから、私たちは複式や小規模校がだめだとか、複式で育った子どもたちがよくないとか、何かで劣っているとか、そういうことは全く考えていません。複式でも、規模が大きい学校でも教育は一生懸命それぞれやっています。ただ、メリット・デメリットは両方あります。

私たちの考えでは、ある程度の規模のほうがより良いのではないかとということで、そちらのほうを取ったということです。決して複式が悪いなどそういう発想ではない。

一方では、複式については、初めて複式学級を持たなければならない先生とか、釜石市の場合では特に他市町村から来る先生が多いので、やはり先生方の負担になっているというのはそのとおりの部分があると考えています。それから、橋野小中学校のイメージが、まさにこれから私たちが作ろうとしている、釜石東中学校での小中一貫教育にもつながってくるのではないかと考えています。

今回の計画の中で、例えば、平田小学校の子どもを大平中学校で、といった時に、教室数が足りないということ、あとは、小中が一緒になれば、普通教室だけではなく特別支援学級の子どもたちのための教室も必要ですし、それから、美術室や音楽室などの特別教室も人数が多ければ1つというわけにはいかないの、それを考えると難しいところです。甲子小中についても同じようなところでした。既存の校舎を使うという方針だったので、教室や学校の設備を考えた時に厳しいかなというところでした。

あと、浸水区域というお話もありましたので、白山小学校の保護者の方にも説明して、スクールバスでの通学ということで、1人で通学するのではなくて、スクールバスで通学すれば何かあった時にスクールバスで高台に避難できるというところ。それから平田小学校で避難訓練をやっていますので、そういったことも含めてご理解をいただいたと考えています。

【参加者】

他の統合の仕方も検討いただいた上での分け方ということで、理解しました。

この資料を出されたときに、初見で、人数の適正化というところで何か数値のパズルをしているように見えてしまう。

複式学級や小規模校のほうが学力が低いということは絶対にはないですし、人間性が育まれないとか、そういったことも絶対にはないので、取り繕うというのはおかしいですけど、そこを全面に押し出してほしい。その思いがあるのであれば、それが前面に出るようにしてほしいなと思います。

【高橋教育長】

先ほど言いましたように、複式が劣っているとか、そういう数値などが出ているものでもありませんし、むしろ複式のほうが場合によっては、高いところもあります。あくまでもそれぞれで、また人数が多いところが劣っているとかそういうことでもありません。

今回いろんな説明会で、複式だろうと規模が大きい学校だろうと先生の質が問題だ、教える先生の質がよければ、複式だろうと大きい学校だろうと、子どもたちは伸びるという厳しい指摘もいただきました。私たちがやることの1つは、教職員の資質の向上、指導力の向上をして、子どもたちの教育に力を発揮する先生を育てていくというのが我々の役目と

いうことを改めて認識したところです。

【参加者】

もう1つ検討事項として提案させていただきたいのが、学区の縛りです。例えば、小規模校のほうがいいという生徒がいたときに学区を飛び越えて釜石東中に行けるとか、もっと流動性、自由度があるといいなと思いますので、ぜひ、そちらもご検討いただければと思います。

【教育委員会事務局】

学区についても検討したいと思います。今の統合案でも、子どもさん、親御さんの理由で、別の学校に、ということにつきましては、個別にご相談に乗りたいと思います。

【参加者】

今回、8年間の計画の中で、前期後期4年で分かれていますけど、前期の部分で、ある程度推進したものを基に後期に向けて見直し等を含めて推進していくのかなと捉えています。

小学校6年、中学校3年ということを考えると、3年間の前期・中期・後期みたいな9年計画のほうが適していたりするのかなと思ったところなので、前期・後期の役割が知りたいところと、そこに絡んで、市議会議員から2つほど意見が出たということで、それについては、一旦そこは取り込まないという形を判断されたということですが、いずれも総合的に考えたときに、良い部分も割とある話だと思うので、そういった部分を継続的に検討する余地は残していたほうがいいと思います。なので、前期・中期・後期なり前期・後期で分けたときに、今、基本のロードマップは大事ですが、8年間が終わると時代も変わっていくと思いますし、おそらく8年後、今担当している方はいらっしやらないと思うので、今後の担当者になっていったときに、1回立てられた計画だからそのまま推進するというにならないように、熱い思いなどがしっかり最後の統合達成まで、統合達成前でも新しい形も含めて引き継がれていくように、最後までやる体制をとってほしいなと思っておりました。時代によって、今メリット・デメリットであるものが、環境が変わったりすることで、メリットがデメリットになったりということも起こると思うので、そこを考えてその時の最善を取るという可能性を残しておいてほしいと思います。未来の話を約束するのは難しいことだと思いますが、思いを引き継いでほしいなと思いますので、よろしくお願いします。

【参加者】

何年かに見直しをかけていただければいい話なのではないでしょうか。

【教育委員会事務局】

皆さんの人生時間の中で、結婚、妊娠、出産、子育て、小学校、中学校への通学など、その人生時間の活動期をどこで過ごすのか、どこで生計を見出すのかというのは本当に大事なことで、その1つの指標で、学校、病院、買い物などがあると思います。尚且つ、学校というのは、子どもたちの日々の伝統芸能などの発表の場であったり、その発表の場を見に行く、保護者やおじいちゃん、おばあちゃんの心の拠り所であると考えております。

前期・後期の計画の見直しも、前期で小学校の複式を解消し、中学校の大きな統合の部分を見据えながら、中間年度で唐丹小学校の在り方ということを考えていきたいと思えます。

市議会で提案のあった小学校同士の交流授業の在り方が、唐丹小学校の部分でどのように活かしていけるのかという視点も大事だと思っておりましたので、見い出していけるかどうかといった部分を含めて、計画期間の枠にとらわれないように考える組織体、今後の体制づくりに反映したいと思えます。

小中一貫教育で、鶴住居小、釜石東中ということ今回考えているわけですが、例えば、ご質問、ご提案にもありました、甲子地区の甲子小学校、甲子中学校、あるいは大平中学校区でいうと平田小学校、大平中学校。他のエリアでもそういった組み合わせは考えられるのですが、まずは物理的に学校が一体型の釜石東中と鶴住居小でやってみて、もし良ければこの計画期間のあとの釜石市内の小中学校の在り方にその考え方を活かしていけるのではないのかという視点も含めて、これは継続的に教育委員会と市長部局と一体となって、話し合いを継続したいと思えます。

【参加者】

これまでの話を聞いていますと、少子化にあたって当然なのかなと。何らかの形で進めていかなければならないのかなというのは重々感じています。ただ、各地域で学校が中心に動いてきた地域から学校がなくなったときに、その地域は残念ながらしぼんでしまう、というのが各地区、いろんなところでみられます。そうじゃなくても、各地区での町内会や理事会とか、一生懸命活動されているのですが、それがだんだん、薄れていくというか、少子化ではないのだけれど、だんだん関わる人、あるいは担い手が少なくなっている状況がありますので、適正化についても、そういった部分も含めながら考えていただければと感じております。

【教育委員会事務局】

ご提案いただいたまちづくりの部分と学校との関わりというのは、今の取組自体も密接に関わって、学校運営協議会でも地域の町内会長さんや地域会議の議長さんにも参加いただいて、学校をより良くしていく部分に地域の皆さんのご助言、関わりをいただいております。この推進計画を進める中でも、その関係性ができるだけ損なわれないように、どうやったら維持していけるのかということ、教育委員会だけではなく、市長部局とも一緒に

考えてやっていきたいと考えております。そういう部分は大事にしていきたいと思います。

【参加者】

私の子どもは小規模校に通っていました。やはり、勉強にしろスポーツにしろ、自分の立ち位置が決まっているんですよ。一生懸命やっても、どうも抜けない。統合することによって自分の居場所を作れる。いじめがあってもほかの仲間と組めることも非常に良くて、子どもたちが学校に行く張り合いができてきたというのが実感、経験としてありました。先ほどお話のあった、人数が少ないから悪い、人数が多いからいいというわけではないのですが、逆に多いことによって自分の居場所を作れる、仲間を作れるというのが、やはり実感としてあったので、大は小を兼ねるではありませんが、やはりある程度の規模があったほうが、学校として体を成しているのではないかと。

それともう1つ言うと、東中学校と統合後の釜石中学校と比較すると、5分の1、6分の1と差があるのがちょっとどうなのかなと懸念される所でした。

【教育委員会事務局】

複式学級の解消ということで、今、規模を見い出そうとしているのですが、小規模校とそれ以外の学校それぞれにメリット・デメリットはあると思います。ただ、現状で統合をしたとしても、文部科学省の指針からいうと、残念ながら小規模校のままではあります。ただ、釜石市で生み出す学びの場が、釜石の子どもたちが釜石らしさを身に付けて社会に出られるような、学校教育の在り方というのを、何とか地域の皆さん、今いらっしゃる皆さんと一緒に協力しながら作り上げていきたいと思っていましたので、今後も引き続きご助言、ご指導のほうよろしくお願ひしたいと思ひます。

【教育委員会事務局】

申し訳ございませんが、そろそろお時間でございます。最後にご発言したい方はいらっしやいますでしょうか。

【参加者】

子ども声があふれる釜石にしましょう。それが釜石の発展だと思います。お願ひします。

【教育委員会事務局】

たくさんのご提言、ご質問ありがとうございました。今後の計画策定の参考とさせていただきます。本日ご発言できなかった方々もいらっしやると存じます。現在パブリックコメントを実施しておりますので、ご提言、ご質問等お寄せいただければと存じます。

それでは、教育長から一言お願ひします。

【高橋教育長】

今日は学校規模の適正化についての説明会ですけれども、私は、根本は、学校統合しようとしまいと、まずは、釜石の子どもたち一人ひとりをどうしていくか、これが一番大事なことだと思っていますので、そこを大事にしながら、皆さんのお知恵を借りて、どうすれば釜石の子どもたちを育てていくことができるのか、たくましくしていくことができるのか、生きる力をつけていくことができるのか。正直言うとこれは教育委員会だけではできないと考えています。厳しいご意見をいただいても構いませんので、もっとこういうことをやってほしいとか、こうあるべきだとか、そういうご意見をどんどん教育委員会にお寄せいただきたいと思います。

保護者の皆さんや地域の皆さん、市民の皆さんがどう考えるのかということが一番だと思いますので、この学校統合につきましても、教育委員会がやるということではなくて、市民の皆さん一人ひとりが、これからの釜石の子どもたちのことを考えた時にどうあるべきなのかという部分を大事にさせていただきながら、その観点でぜひ、いろいろなご意見を教育委員会にお寄せいただければと思います。

本日は本当にありがとうございました。

(6)閉会